

委員会視察成果報告書

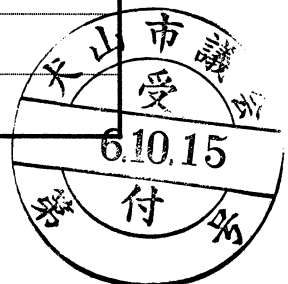
令和6年10月15日

犬山市議会議長

議員名 沼靖子

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和6年10月1日(火)～10月2日(水)
(2) 視 察 地	広島県呉市、福岡県太宰府市
(3) 視察の種類	建設経済委員会
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	別紙のとおり
(5) 犬 山 市 に 対する提言	別紙のとおり



(4) 視察成果

●呉市「空き家対策」

呉市では、市民向けの発信・周知方法が講演会や合同相談会など多岐にわたり行われている。空き家問題は一口に言っても、持ち主ごとの課題はそれぞれ異なる。市場への流通の可否、相続、解体など、空き家に関する問題はどのタイミングで発生するか予測が難しいため、思い立った時に相談できる選択肢が多いことが、「対策」の第一歩だと感じた。

また、空き家対策と移住施策を組み合わせた取り組みも進められており、中古住宅を購入して居住する場合の補助金制度が存在する。特に新婚・子育て世帯にはさらに加算された助成金が提供されている点は注目すべきである。

一方で、「島暮らしお試し住宅」という取り組みもあったが、これは市街地から離れた場所にあるため、働き盛りの子育て世代にとっては、職場や学校へのアクセスが課題となり、現実的な選択肢としては難しいと感じた。

●大宰府市「歴史と文化の環境税」

「歴史と文化の環境税」が導入されてから20年が経過している。現地に赴く前に座学で学んだが、この税の継続的な課税によって、自然環境や観光整備が着実に進んできたことが確認できた。来訪者から財源を確保する方法については、5.6%という数値が評価されており、今後の観光のあり方に関わる重要な指標となると考えた。

観光の管理運営は、自治体だけで行うものという意識が根強いように感じるが、市民の多くはこの税の継続に肯定的な回答をしている。日本中の歴史的遺産を来訪者と市民が共に守っていくという意識を、今後私たちも受け入れていくべき課題だと感じた。

午後には大宰府周辺の駐車場を視察。駐車場の看板には環境税についての説明が明記されており、駐車する来訪者も「これくらいなら払える」という感覚を持っているように思われた。観光客が「来てみたい場所に来られた」という達成感と、おもてなしの心を感じられるような観光体験が提供されていることも、大きな魅力であった。

(5) 犬山市に対する提言

・呉市のように、空き家対策と移住定住支援をさらに強く結びつける施策が有効かと思う。特に犬山市は超高齢化に伴い、相続問題が深刻になっていき、空き家がそのまま放置されることが考えられます。そこで、相続が発生する前からの予防的な取り組みとして、所有者やその家族への早期相談体制の強化が必要である。相談会や講演会を通じ、相続に備えた家の有効活用や売却・賃貸の手続きについての啓発を進めることが重要である。

既に犬山市は移住・定住促進に予算を割いているので、これを空き家問題と結びつけ、空き家をリノベーションして若年層や子育て世代向けの住宅として提供する仕組みをさらに推進できると考える。補助金や助成金を設け、若い家族に魅力的な選択肢を提供することで、少子化対策にもつながるのではないか。

・駐車料金の引き上げは収益向上の手段ですが、その収益を観光客向けの整備に還元することが重要と考える。例えば、観光客が利用する施設のバリアフリー化や案内標識の充実、歴史的な背景を学べるデジタル展示の導入など、観光体験を充実させることで、観光客の満足度を高めてはどうか。